

地域看護教育におけるコミュニティとの協働

Collaboration with Community in Public Health Nursing Education

伊藤直子¹⁾，王麗華¹⁾，高安令子¹⁾，木下麻子¹⁾，渋谷英之²⁾，
山口貴代美²⁾，田中諭子²⁾，戸口宏美³⁾，杉森裕樹¹⁾

1) 大東文化大学 スポーツ・健康科学部 看護学科

2) 埼玉県比企郡鳩山町 長寿福祉課 地域包括ケアセンター

3) 埼玉県比企郡鳩山町 町民健康課 保健センター

抄 録

地域看護実践の対象，場，方法は多様な広がりを見せており，2019年に地域看護学の再定義が行われた．地域看護学は，多様な場で生活する様々な健康レベルにある人々を対象としており，その生活を捉えるためには，人々やコミュニティと協働しながら効果的な看護を探究することが求められている．

2018年に設置された本学の教育においても，人々の住まいである地域を基盤に取り入れ，人々やコミュニティと協働したいと考えている．そして，住民当事者に受け入れられる方法で健康活動を実践・探求できる力を育成するには，学生に伝えることができるよう地域の現状を把握する必要があるのではないかと考え，本論では「地域を歩いて知る（地区踏査・地区視診）」取り組みを実践し，その経過を報告することとした．

地域住民と大学がより近い存在になり，住民の暮らしを理解し共有する機会は重要である．本学においても，大学と周辺コミュニティを分断することなく，教員が地域の今を知る視点を持ち続け，地域看護教育にタイムリーに反映できる教育を目指したい．

キーワード：地域看護，教育，コミュニティ，協働

I. 地域看護学とは

今日の地域看護実践の対象，場，方法は多様な広がりを見せており，これまでの4領域（行政看護，産業看護，学校保健，在宅看護）のみでは十分説明できなくなってきたことに伴い，日本地域看護学会では地域看護学の再定義(2019)を行っている¹⁾。

- 地域看護は，人々の健康と安全を支援することによって，人々の生活の継続性を保障し，生活の質の向上に寄与することを目的とする。
- 地域看護学は，多様な場で生活する様々な健康レベルにある人々を対象とし，その生活を継続的・包括的にとらえ，人々やコミュニティと協働しながら効果的な看護を探究する実践科学である。（一部抜粋）

上記のような地域看護学教育の考え方が示された中，2018年に設置された本学看護学科においては，地域で暮らす人々の健康と療養を支えるために，新時代の看護師を育成するための地域看護学・在宅看護学科目が編成された(図1)。

1年次の地域看護学概論では，地域をとらえる視点を学ぶために大学近隣市町村の健康支援の実際を調査する演習を行っている。ヘルスプロモーションと地域看護の技法を用いてグループワークを行い，学生は身近な地域の取り組みを知る機会となっている。

地域看護学・在宅看護学の関連科目

	前期		後期	
1年次			地域看護学概論	地域包括ケア概論
2年次	在宅看護学概論	地域健康支援論	在宅看護学方法論	
3年次	在宅看護学演習		在宅看護学実習	地域包括ケア方法論
4年次	地域包括ケア演習	地域包括ケア実習		

本学のカリキュラムに基づく科目編成

図1 本学の地域看護学・在宅看護学の科目編成

今後，本学の地域看護学・在宅看護学の関連する教育と研究においては，人々の住まいである地域を基盤に取り入れ，人々やコミュニティと協働したいと考

えている。加えて、住民当事者に受け入れられる方法で健康活動を実践・探求できる力を育成するには、学生に伝えることができるよう地域の現状を把握する必要があるのではないかと考えた。その第1段階として著者らが「地域を歩いて知る（地区踏査・地区視診）」取り組みを実践し、本論において経過を報告する。

Ⅱ．地域診断と地域を知る方法論

市町村などの一定の地域における住民の健康状態や生活状況、環境などのデータを収集して、地域住民の健康にかかわる問題点を明らかにするために地域診断の方法論が用いられる²⁾。情報収集、アセスメントから分析、診断、計画、実践、評価の一連の過程を指し、入院患者である人について捉える看護過程と同様の考え方である³⁾。異なる点は、個人あるいは家族を対象としているだけでなく、『地域』そのものを対象（Community-oriented Nursing）としており、地域の現状を分析し健康課題を把握し、ボトムアップ的に政策に反映していく一連のプロセスである⁴⁾。

著者らが地域診断に取り組む上では、看護基礎教育で広く用いられているモデルを取り入れた。地域診断の基本構造は、①地区踏査/地区視診「地域を歩いて知る」②既存資料の活用③実態調査の3つの視点⁵⁾であり、これらの健康問題に関連する情報を包括的に収集する必要がある。中でも、地域診断を行う上で、地域に出向き直接把握した住民の声や職員の声などいわゆる「足で稼ぐ情報」も必要不可欠であるといわれ⁶⁾、実際に地域で出会った人々との話を重要な情報源とした。

また、地域診断をする上で必要となる項目については「コミュニティアズパートナーモデルによる情報の整理」の区分を参考にした⁶⁾。コミュニティアズパートナーモデルは、コミュニティを構成する人々、および物理的環境、経済、政治と行政、教育、交通と安全、コミュニケーション・情報、レクリエーション、保健医療と社会福祉の8つの領域に関わるデータを収集、分析し地域の課題を分析する。今回はこの区分を基に具体的な項目を抽出し整理を行った。

Ⅲ. 地域を知る

対象地域は、埼玉県比企郡鳩山町である。鳩山町は、本学東松山キャンパスの隣町に位置し、大学から4～5km、車で約10分の距離圏である。著者らが実際に出向いた経過を表1に示す。記録は、コミュニティアズパートナーモデルによる情報の整理の区分をもとに作成されたワークシート「地域を歩いて知るシート」を用いた(表1)。なお、この取り組みは、大東文化大学ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号：DHR19-008)。

鳩山町では高齢化率が高く、これまでに多くの健康づくり・介護予防事業や住民ボランティア育成への取り組み⁷⁾が行われてきた。様々な働きかけにより平成26年から3年連続で65歳健康寿命が男女ともに県内1位となり、元気な高齢者が暮らしていることも同町の特徴として捉えた。

その一方で、町の福祉職員へのインタビューでは、なかなか外に出ない方や様々なイベントに参加しない方へのかかわり方について話題となり、重要な検討課題になっているとの現状を知った。ニュータウン世代の高齢男性は、会社勤め中に地域とのつながりが希薄であり、退職後は孤立しやすい背景があるとのことだった。また、地域包括支援センターの職員へ最近の話題についてインタビューしたところ、運転免許返納後の高齢者の交通手段をどのように確保したらよいか、ごみを捨てることが困難になってきた方や分別が難しい高齢者への対応について等が話題になっているとのことだった。高齢者が生活行動を制限されることなく活動を維持できるように、支援方法の検討が急務であると思われた。

このような地域の課題について大学側と共有を図り、具体的な支援を見出ししていきたいと考える。そのためには継続的なニーズ把握および地域と協働する関係づくりは欠かせない。

近年の大学看護学部の役割について住民ニーズに基づいた検討では、住民の期待することは、人として温かい看護職育成や地域医療の質向上への期待、学生による地域の活性化や市民の健康な生活への関わりに期待する声があったと

表1 地域を歩いて知るシート (Learning about the Community on foot)

I 地域に暮らす人々	
歴史	古くは街道沿いの宿場町や材木の中継地として賑わいをみせていた。明治22年、町村制施行で亀井村と今宿村という2つの村が誕生、昭和30年に両村は合併し「鳩山村」となる。昭和49年（1974年）から鳩山ニュータウンの造成が始まり人口が急増した。昭和57年、町制が施行され「鳩山町」となった。
人口統計	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、道を歩いている人は見かけない。鳩山ニュータウンのスーパーには町民を見かけた。スーパーの駐車場には高齢者マークを付けた車が多く停められていた。 ・平成7年（1995年）から平成8年（1996年）にかけて約18,000人の人口ピークとなり、その後減少し続けている。 ・令和2年1月1日現在、総人口：13,657人（65歳以上5,935人、高齢化率は43.9%）
住民の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳健康寿命では、平成26年、27年、28年の3年連続で男女ともに県内1位を達成した。 ・65歳以上の介護保険認定率10.1%（低さ県内2位）、介護保険料4000円（安さ県内1位）平成30年
II 地域を構成する要素	
物理的環境	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県のほぼ中央部に位置し、都心から50kmの地点にある。 ・町の東側にはニュータウン地区があり、大学のある東松山市や東武東上線高坂駅へのアクセスがしやすい。 ・ニュータウン地区は、坂が多い。鳩ヶ丘・松ヶ丘・楓ヶ丘など「丘」のつく地名が多い。 ・山林が多い、田畑はさほど多くない。 ・地目面積と構成比：面積25.73km²、田7.87%、畑12.87%、宅地12.42%、山林33.58%、その他33.26%
保健医療と社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師は町内7名、2課4担当に分かれている。 （町民健康課：町民サービス・子育て支援担当、保健センター 健康増進・子育て相談担当） 長寿福祉課：介護保険担当、地域包括支援センター 地域包括ケア担当） ・研究機関や大学と連携し、健康寿命の延伸につなげる事業を数多く展開している。 ・医療施設は4か所（診療所3、病院1）、かかりつけ医としての利用が多い
経済	<ul style="list-style-type: none"> ・鳩山ニュータウンのスーパー西友の営業時間は、あさ5：00～深夜1：00であった。小さい子連れのお母や高齢者、男性客など様々な人々が買い物に来ていた。スーパーの前のベンチでは、高齢の姉妹や主婦が会話している姿が見られた。 ・産業別就業者人口（平成27年）6,418人：第一次産業213人、第二次産業1,662人、第三次産業4,370人、その他173人
安全と交通	<ul style="list-style-type: none"> ・町内に2つの駐在所がある。ニュータウン地区の駐在所では、3500世帯8000人を担当していた。 ・事件事故はほとんどない、最近は空き巣が発生しているとのことだった。 ・高齢者や認知症の方については、ご近所で見守りをしているとのことだった。 ・町内に鉄道はなく、最寄り駅は東上線高坂駅、路線バスや町内循環バスを利用できる。 ・スーパーの駐車場には高齢者マークを付けた車が多数停められていた。 ・デマンドタクシー（予約制の乗合交通）町内エリア便と埼玉医大便が利用できる。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・町のふれあいセンター内のニュータウンふくしプラザでは、学校帰りの小学生が宿題をしていた。その隣では高齢女性たちの集まりがあり、子供たちにお菓子を配る姿が見られた。 ・幼稚園1か所、小学校3か所、中学校1か所、公立高校1か所
III 地域の印象	
住民	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター職員へインタビュー 気になることは、買い物問題（免許返納後に不便を感じている高齢者がいる、デマンドタクシーは曜日や時間が限定される）、ごみ問題（ごみを捨てるが大変になってきた方や分別が難しい方がいる）がある、相談内容は多種多様である（認知症の受診方法、介護保険の申請方法やサービスの紹介、施設を紹介してほしい、遠方の家族からの老親の安否の問い合わせ、民生委員や医療機関からの問い合わせ等）、ニュータウン世代の交流が少ないことが気になる。 ・ニュータウンふくしプラザ内で職員へインタビュー 町のニーズについて、このような場所に来ない人、外に出ない人への働きかけを考えている。特に高齢男性の孤立予防、会社勤め中に地域とのつながりが少ないため、退職後は孤立しやすい。健康には意識が高いと思われ、何らかの役割があれば参加を促すことにつながるかもしれない。
自分の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・急速な高齢化のなかで、これまでに多くの健康づくり・介護予防事業が行われ、健やかで元気な高齢者が多い印象。 ・一方で、事業に参加しない高齢者がいることを知り孤立化、虚弱が懸念される。 ・高齢者ならではの生活上の問題（買い物の交通手段やごみ処理方法）を抱えている方がいること。町へ寄せられる相談は多様化している。

参考

- ・鳩山町HP統計データ (<http://www.town.hatoyama.saitama.jp/index.html>)
- ・2019年度地域包括ケア概論講義資料（鳩山町地域包括支援センター 保健師 山口貴代美 氏）

報告されている⁸⁾。地域住民と大学がより近い存在になり、住民の暮らしを理解し共有する機会が重要である。本学においても、大学と周辺コミュニティを分断することなく、教員が地域の今を知る視点を持ち続け、地域看護教育にタイムリーに反映できる教育を目指したいと考える。

謝辞

ご協力いただいた鳩山町社会福祉協議会の職員の皆様、鳩山東駐在所職員、鳩山町の住民の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

文献

- 1) 一般社団法人日本地域看護学会，<http://jachn.umin.jp>（閲覧日：2020年2月1日）
- 2) 臺有桂，石田千絵，山下留理子（2019）：ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア，107-109，メディカ出版，大阪
- 3) 平野かよ子（2019）：最新保健学講座5公衆衛生看護管理論，4-5，メヂカルフレンド社，東京
- 4) 一般財団法人日本公衆衛生協会（2011）：平成22年度地域保健総合推進事業，地域診断から始まる見える保健活動実践推進事業報告書http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/menu04_2_10_all.pdf（閲覧日：2020年2月1日）
- 5) 金川克子，田高悦子（2011）：地域看護診断，第2版，16，東京大学出版会，東京
- 6) Elizabeth T. Anderson, Judith McFarlane（2015）：コミュニティアズパートナー—地域看護学の理論と実際，金川克子・早川和夫訳，147-188，医学書院，東京
- 7) 小宇佐陽子，清水由美子，李相侖他（2012）：地域の保健・福祉の向上を目指した住民ボランティア育成への取り組み，日本公衆衛生雑誌，59（3），161-170
- 8) 渡邊美樹，篠原亮次（2019）：地域貢献を目指した看護学部の役割～健康促

進と看護学部の地域貢献活動に対する住民ニーズに基づく検討～，健康科学大
学紀要，第 15 号，85-92